



木星の世界～大赤斑^{だいせきはん}

木星も紹介した赤い目玉のような大赤斑について少し詳しくご紹介しましょう。大赤斑は^{うず}大気の渦と紹介しました。よく木星大気の「^{たいふう}台風のようなもの」という^{ひゆ}比喩が使われたりします。地球の台風は地表付近から雲の頂あたりまでは^{ていきあつ}低気圧ですし、渦の^{かいてんほうこう}回転方向も^{ていきあつてき}低気圧的^{こうきあつてき}です。一方、大赤斑の渦の回転方向は^{こうきあつてき}高気圧的^{はんせい}です。木星の南半球にあり、反時計回りに回っています。私も、プラネタリウムで解説するとき、つい「台風のようなもの」という比喩を使ってしまい、その度に^{はんせい}深く反省しています。



Image Credit:

Image data: NASA/JPL-Caltech/SwRI/MSSS

Image processing by Kevin M. Gill, © CC BY

探査機 JUNO による大赤斑

2019年2月12日観測

大赤斑は長い間、^{あかみ}赤味を失っていましたが、2012年頃からだんだん赤さを増し、今ではギャラクシティの「^{ぼうえんきょう}星を見る会」で用いている望遠鏡でも赤い姿を見ること出来るまでに^{ふっかつ}復活しています。この^{じょうたい}状態がいつまで続くのかは分かりません。大赤斑点自体は^{じたい}徐々に^{じょじょ}小さくなっており(今は、19世紀末の3分の1、1940年代の半分くらいの大ささ)、赤い大赤斑を見ることのできるチャンスは、**今が最後**なのかも知れません。

^{かいせつじん たべいっし}
(解説員:田部一志)